

日本発ドイツ便り～ベルリンの熊

ベルリンで毎年2月に行われる国際映画祭、ベルリン国際映画祭。
(現地では Berlinale: ベルリナーレと呼びます。)この映画祭の最高の賞、作品賞のことを
Goldner Bär: ゴルドナー・ベア(日本語では金熊賞と呼びますね。)

なんで・・・熊？



これはベルリン市の紋章です。そうなんです。ベルリンのシンボルは熊です。本当か冗談か分らないですが、ベルリン(Berlin)のBerとドイツ語のBär「熊」が似ているということで象徴となったそうです。もともとは「鷲」だったそうですが、ワイマール共和政以降正式に熊になったのだそうです。(突然熊が出てきた理由はブランデンブルク侯が・・・なんて話もあるようですが、長くなるので省略します。興味があれば調べてみてください。)

そんなこんなでベルリンの街の中ではいろんなところで(といっても住宅地にはないでしょうけど)この熊を見ることができます。

もちろん、世界的に有名になって映画にまでなった白熊のクヌートがいるのもこのベルリンです。

街で見かけた熊さんたち。



旅行会社の看板ベア？



ベルリンの風景がかかれたもの



これはベルリン動物園の何周年か記念の熊



クリスマス市にあった熊

熊の形や大きさは全部同じなのですが、思い思いにデザインされた熊が街のいろんなところにあり

ます。ベルリン中で一体何体(頭?)の熊がいるんでしょうね?きっと有名なアーティストのデザインした熊とかもあると思います。

もちろん熊グッズはベルリンみやげとしても有名です。

あとここ 10 年くらいでベルリンのシンボルとして有名になったものがあります。

その名は、Ampelmännchen (アンペルメンヒェン)
これです。



そう、歩行者用の信号のこの人。(Ampel=信号、männchen=小さな人という意味です)
このデザイン、生まれは 1961 年の旧東ドイツ、交通事故を減らすため、誰にでも親しみやすいマークを! ということで、交通心理学者の Karl Peglau という人が考案したものだそうです。子供たちが交通規則をちゃんと理解したら、Ampelmännchen のバッジやキーホルダーなどが与えられえたのだそうです。旧東ドイツの崩壊とともに、信号も EU 標準に撤去置換がはじまったようですが「Ampelmännchen 救済委員会」なるものも出来て、市民の反対運動の結果もあり、今でもベルリンの旧東ドイツ側や旧東ドイツの街などで、この Ampelmännchen が残っているのだそうです。(こんな由緒あるものとは思っていませんでした。調べてみてよかったです。☺)
なんでも 1996 年に商標登録されて、それ以来キャラクターグッズとして売られています。

ところで、信号と言え、EU 標準というものがあるのは分りましたが、同じ旧東ドイツの街、ドレスデンにはこんな信号がありました。



Ampelmännchen ではなくて、女の子版、Ampelmädchen (アンペルメートヒエン?)

さりげなく、名物が転がっているベルリンでした。